

公表 事業所における自己評価結果（放課後等デイサービス）

事業所名		クレヨンルーム		公表日		令和8年1月26日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		適性に応じて配慮し、パーティションで区切る、運動メニューの調整等を行っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		有資格者等を必要人数配置している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		イラストなどを用いたスケジュールの確認ボードを設置し、注意すべきことなど構造化している。また、バリアフリーになっていない箇所は踏み台を設置している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		換気や消毒を行って感染症予防の対策も取りながら、清潔で過ごしやすい環境設定を行っている。	日々の清掃消毒に加え、目につきづらい場所も定期的に整えて環境がより良くなるよう心がけていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		個室やパーティションを使用し、安心して過ごせる居場所作りを行っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		振り返りを行い、職員間での情報共有を密にし、より良い支援に繋がるようにしている。	業務改善がより出来るように職員一人ひとりが心がけていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		保護者評価を定期的に実施し、より良い支援・環境作りに心がけている。。	今後も保護者の意向等聞きながらより良い支援に努める。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		職員間で意見を出し合える機会を設けており、日々振り返りと改善をしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5		第三者評価を実施していないので、今後検討していきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		定期的に職場研修を開催し、職員のスキルアップを試みている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		支援プログラムを作成し、ホームページに掲載している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		保護者やこどもとの面談を大切に考え、ニーズや課題を把握・共有して計画書を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		情報共有を全職員で行い、より良い支援になるように話し合いながら検討している。	主観的にならないよう、全職員で5領域を念頭にこれからも作成していく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		個別計画書を全職員で確認し、支援目標や支援内容、達成時期が適しているかを精査している。	

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		アセスメントを詳しく行い、現状を把握して発達状況を記録して支援に繋げている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		個別計画書の様式に項目を作成し、5領域全てにおいてこどもに必要な支援目標・支援内容を設定している。	今後もガイドラインの項目をよく確認しながら、長期目標・短期目標などを計画的に設定する。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		運動・工作プログラムを中心に月間スケジュールを作成し、それに基づいて職員間で立案・検討を行っている。	苦手意識から自信に繋がるように支援する。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		マンネリ化・固定化しないように、振り返りをしながら活動内容を決めている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		個別活動は寄り添った支援を、集団活動はグループで協力することを学びながら支援をしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		支援前に活動内容や声かけの注意点・職員各自の動き等を職員間で確認し、連携して支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		支援後、職員で支援時の気づきや送迎時に得た情報を共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		支援後に支援内容と気づきや状況などを記録し、支援の改善に繋げている。	今後も会議やより良い支援に繋がるように努める。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的にモニタリングを行い、必要な場合は見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	5		創作活動で表現する喜びを体験したり、学校との連携を図りながら日常生活活動も含め、将来の自立を見据えた活動等を組み合わせ、ニーズに応じた活動を提供している。	
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		活動の中で目標設定等、こどもに選択できる場面を用意し、やる気と自己決定力を育てている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		児童発達管理責任者や対象のこどもの状況を把握している職員が会議等に参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		必要に応じて、連携を図れる体制を整えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		年・月間予定（計画）表等、下校時刻や行事等を学校と連携し調整・確認を行っている。	下校時刻の急な変更があった際、連絡調整が上手くいかない時が時々ある。

関係機関や保護者との連携	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		保護者を通じて連携している。	児童発達支援から引き続き放課後等デイサービスを利用しているこどもは保育所等と情報共有できているが、新規こどもは直接の情報共有はできていない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		保護者の同意を得て、必要に応じて情報提供できる体制を整えている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	4		放課後等デイサービスの連絡会等に参加し、助言・アドバイスを受け支援にこれからも活かしていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		5		今後必要に応じて検討していく。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	2	3		放課後等デイサービス連絡会で参加する事業所を決めて参加し、報告を受けている。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		毎回の支援内容などを伝える連絡帳や送迎時に、こどもの状況や発達状況・課題について保護者と共有を行っている。	学校での連絡事項や家庭での様子も共有していきたい。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5			家族への対応方法は伝えているが、研修の機会は設けていないので、検討していきたい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時に丁寧に説明を行っている。また、運営規定は保護者が自由に閲覧できるようにしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		アセスメントを行い、本人と保護者の意思を確認している。そして、それを尊重して、こどもにとってより良い計画になるよう作成している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		発達段階に合わせた計画書の説明を行い、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		保護者から悩み等の相談があれば、個別に時間をとり、面談や助言を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		5		父母会の交流の機会は設けていないので検討していきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		意見箱を設置し、保護者の意見を反映しやすい環境づくりをしている。また、相談の申入れがあった場合は、その都度対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		定期的にお便りを発行したり、HPに活動の様子を配信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		情報提供等する場合は保護者の同意を得るなど個人情報の取り扱いには留意している。またHP等の写真には個人を特定できないように配慮している。	

保護者への説明等	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		連絡帳に支援内容等を記録し、活動内容や様子が伝わるようにしている。また、送迎時や電話等でもお伝えしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		近隣の他事業所やよく利用する公民館に手作りの感謝カードを渡している。	地域の方と一緒に避難訓練なども行っていきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		各マニュアルを策定し、職員は研修・訓練を行い、保護者に周知している。	定期的にマニュアルを更新し最善の状態で万が一に備えたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		BCPを策定し、定期的に研修・訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		服薬状況等、確認している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		契約時にアレルギーの有無を確認している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全計画を作成し、研修を行っている。また、日々の送迎時に乗降り等の確認を行い、記録をとっている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		契約時に説明を行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハット事例集を共有し、防止に向けて努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		定期的に研修を行い、日々の振り返りをする事で虐待防止に努めている。また虐待防止に関わるセルフチェックを全職員に対して定期的実施している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		保護者にどのような際に身体拘束を行うかを契約時に説明している。また、子どもの状況を職員間で共有し、やむを得ないケースと判断した場合は、その旨を個別支援計画書に記載し保護者の同意を得ている。	